

■再生可能な空き家を次世代へつなぐ

シニアライフ・ライフワークでものづくり

少子高齢化社会により若い世代が減り、高齢者が増えると、働き方も大きく変化する時代へ突入。これから生産年齢人口が減ると税収が減り、年金だけで生活できない高齢者が増え、会社をリタイアしたあとも仕事をしていく終身雇用の時代。

これからの働き方改革としていかに「生きるか」、いかに「楽しく」、「生きがい」をもって暮らすか、「自分が必要とする技術」からシニアライフを考える。内閣府のデータによると、2016年の労働力人口は6673万人でした。そのうち高齢者は65～69歳が450万人、70歳以上が336万人います。労働人口総数のうち高齢者の割合11.8%で、1980年の4.9%から年々上昇し続けています。

新たに自由に知識・経験をコラボした「人」の想像力による多世代とシニアの知識・経験・技術による新たなコミュニケーションアブラーが求められる。

空き家で未来塾

再生可能な空き家活用を、少子高齢化社会による多世代と、いかに楽しく、生きがいをもって、楽しく暮らすか、これからは空き家を地域の工房として「自分の技術・知識を活かす「物づくり」により新たなシニアライフワークの復活と共に空き家を活用した物づくり体感・ワークショップを開催する。

今後の取組により、今後、空き家をコミュニケーションアブラーとして、「物づくり」の楽しさを自由に参加・体感・遊び・学びの場による「未来塾」を開催して、21世紀の「新たな物づくり」を推進する。また、未来塾により人材の発掘、指導者、発明家を育てる。

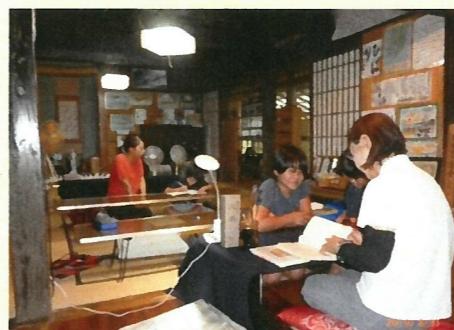
今後は空き家活用として、地方創生による「物づくり」による地域に共同のバーチャルな工房「物づくり」から教育・地域・暮らし・生き方・生きがい・遊び・楽しさに変える取組みを推進する。新たな地域の魅力アップ・地域力の向上により地域コミュニティを図り、新たなソーシャルビジネスを推進する。



空き家で物づくり



空き家で未来塾



空き家で寺子屋



古民家Cafeで未来塾



シニアライフ



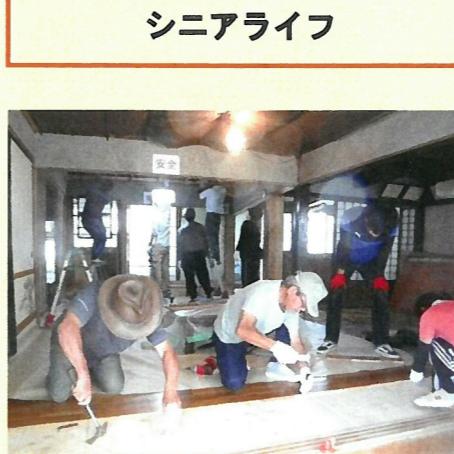
空き家の管理　暮れの掃除

アナログ・デジタル工房

地域に残る空き家を地域の工房として「物・人の経験・知識」を最大限に活用し多世代とシニアの交流により新しい令和の時代に適応したソーシャルビジネスを生み出す。地域・学校・仕事・趣味の領域を持ち寄りより多世代とのコラボによる物づくりを、アナログ・デジタルの専門分野の人により技術・知識を共有してものづくりの工房として再生可能な空き家をD I Yにより維持・修繕をおこない、再生可能な空き家の維持・向上につなげる。また、再生可能な空き家のストック確保と流通促進に繋がり新たな活用が活性化される。今後、空き家を工房として活用しアナログ・デジタル3Dプリンター等により「人・物づくり」による地域の空き家を多用途に活用し知識・経験・遊び・学びながら「個性・豊かな物づくり」を次世代に繋ぐコミュニケーションアブラーを推進する。

空き家活用でソーシャルビジネス

現在はデジタル・AIの時代に、アナログの物づくりから「物を生み出す力・作る力」と「自己表現」からの想像力を「複数の誰かと新しい物づくり」で次世代の子供たちにものづくりの教育実習の課外授業としての場を図り、再生可能な空き家の納屋・土間のある空き家を活かしたガレージハウス・アブラーとして活用が期待される。また、これからデジタル社会の中で、「教育・暮らし・働き方・生き方・生きがい等」の拠点づくりとして活用され「人と物」による新たな地方におけるコミュニティと、今後は物づくりの職人が育たない社会環境の中で地方の空き家を活用する。今後はシニアライフ・ワークスタイルで、「人と物づくり」から、次世代の物づくりによる新たな空き家ビジネスとして収益性のある用途に空き家を再生・活用を図り空き家活用のネットワーク化を提案する。



D I Yで空き家再生